

文学部教員研究活動一覧

(平成 29 年度)

安藤美華代

論文

1. 「糖尿病医療における心理臨床的視点を
取り入れた多職種協働チームでのケース
カンファレンスの試み」『心理・教育相
談の実践研究 第15号』 2017年12月、
1-8頁
2. 「大学生における怒り感情のコントロー
ル」田島真惟・安藤美華代(共著)『心理・
教育相談の実践研究 第15号』 2017年
12月、25-34頁
3. 「学校運動部活動指導者の心理的負担感
と対処に関する検討」『岡山大学教師教
育開発センター紀要 第8号』, 2018年3
月、45-57頁
4. 「就学前後の子をもつ親の子育て不安・
子育て支援に関する検討」岡崎由美子・
安藤美華代(共著)『岡山大学教師教
育開発センター紀要 第8号』, 2018年3
月、193-206頁
5. 回日本糖尿病学会年次学術集会, 2017年
5月18日, 名古屋国際会議場
3. 「若者のスマートフォン依存傾向の形成
要因に関する予備的研究」 厚見由佳・
安藤美華代(共同発表)日本心理学会第81
回大会, 2017年9月20日, 久留米シティ
プラザ
4. 「教師との関係性とほめ方から見た児童
の動機づけに関する研究」 見戸真由子・
安藤美華代(共同発表)日本心理学会第81
回大会, 2017年9月21日, 久留米シティ
プラザ
5. 「セルフ・コンパッションに着目した新
任教員のストレス緩和」 川西沙織梨・
安藤美華代(共同発表)日本心理学会第81
回大会, 2017年9月22日, 久留米シティ
プラザ
6. 「小学生の積極的授業参加行動に関わる
心理的要因の探索的研究」 安田晃介・
安藤美華代(共同発表)日本心理学会第81
回大会, 2017年9月22日, 久留米シティ
プラザ

研究発表

1. 「心理教育“サクセスフル・セルフ”にも
とづく糖尿病教室での糖尿病患者のここ
ろの支援」, 第60回日本糖尿病学会年次学
術集会, 2017年5月18日, 名古屋国際会
議場
2. 「糖尿病心理カンファレンスの試み」 安
藤晋一郎・安藤美華代・浜原潤・本多寛
之・寺見隆宏・安永沙織(共同発表)第60
8. 「中学生における家族機能および友人関

係と抑うつに関連—家族凝集性と傷つけ合い回避傾向に着目して—」 坂田宏絵・安藤美華代(共同発表)日本心理臨床学会第36回大会, 2017年11月19日, パシフィコ横浜

9. 「特別支援学校教育に携わる教師のストレスとセルフケアに関する検討—困難に打ち勝つ自己効力感に着目して—」 日本心理臨床学会第36回大会, 2017年11月20日, パシフィコ横浜
10. 「大学生における怒り感情コントロールのプロセスに関する研究」 田島真惟・安藤美華代(共同発表)日本心理臨床学会第36回大会, 2017年11月20日, パシフィコ横浜
11. 「定時制高校生におけるいじめ場面傍観時の感情と対処に関する研究—被害者との関係と共感性に焦点を当てて—」 中西 彩・安藤美華代(共同発表)日本心理臨床学会第36回大会, 2017年11月21日, パシフィコ横浜

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. ワークブック:『“サクセスフル・セルフ”ワークブック 第2版 チーム医療と人間関係力Up!』(ISBN978-4-9908256-1-4), 岡山大学安藤美華代研究室, 2017年4月, 54頁
2. 研究会の開催:『第6回サクセスフル・セルフ研究会』 岡山大学教育学部404講義室, 2017年12月3日

植村 玄輝

著書

1. 『ワードマップ現代現象学——経験からはじめる哲学入門』, 新曜社, 2017年(8月), viii+314頁。(植村玄輝・八重樫徹・

吉川孝 編著, 富山豊・森功次 著, 「第3章 経験の志向性と一人称性」(65-94頁)「第5章 存在」(137-166頁), 「8-2 約束」(244-257頁), コラム「フッサールのノエマ概念」(131-135頁)および「社会の現象学」(258-261頁)の執筆を担当したほか, 編者の一人として, 著作全体の構成などに貢献した。)

論文

1. 「哲学史研究は哲学的かつ歴史的でありえるのか——過去の主張についての規範的探求という観点からの提案」, 招待論文(査読なし), 『哲學』(日本哲学会), 第68号, 2017年(4月), 28-44頁。
2. 「世界無化の考察によってフッサールは何をどこまで示したのか」, 『フッサール研究』(フッサール研究会編)第15号, 2018年(3月), 1-23頁。

研究発表

1. “On the Intentional Structure of (Hetero-Induced) Shame/Pride.” Hiroshima Philosophy Forum 1: Mind & Cognition, April 29, 2017, Satellite Campus Hiroshima.
2. 「哲学史研究は哲学的かつ歴史的でありえるのか——過去の主張についての規範的探求という観点からの提案」, シンポジウム「哲学史研究の哲学的意義とはなにか」, 日本哲学会第76回大会, 2017年5月20日, 一橋大学国立東キャンパス。
3. 「尾高朝雄とフッサール——ノモス主権論の現象学的背景」(八重樫徹との共同発表), 東京法哲学研究会, 2017年6月24日, 明治大学駿河台キャンパス。
4. 「現象的なものとリアルなもの——初期現象学とメルロ＝ポンティ」, シンポジ

ウム「メルロ＝ポンティと初期現象学」,
メルロ＝ポンティ・サークル, 2017年9
月3日, 成城大学。

5. 「拙著『真理・存在・意識』について」, フッ
サル研究会特別企画「植村玄輝『真理・
存在・意識——フッサール『論理学研究』
を読む』合評会」における提題, 2017年9
月10日, 東京大学本郷キャンパス。
6. 「初期現象学と共同行為論の接点——期
待していいこと、しないほうがいいこと、
泥臭い作業を厭わない人のための今後の
課題」, シンポジウム「共同行為の現象学
——現象学と現代行為論の接点を探る
——」における提題, 日本現象学会第39
回研究大会, 2017年11月11日, 大阪大
学吹田キャンパス。
7. 「現象学的態度と美的体験——フッサー
ルと美学の接点?」, 立命館大学大学院
先端総合学術研究科院生プロジェクト
「分析哲学と芸術」研究会, 2017年11月
19日, 立命館大学衣笠キャンパス。
8. “What Does it Mean that Social Acts
are Addressed to Others?” Reinach
Centennial Conference, December 14,
2017, Ludwig-Maximilians-Universität
München.

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「ワークショップ報告『媒介論的描像を抜
け出して多元的実在論へ——ドレイファ
スとテイラーの現象学』」(村田純一, 荒
畑靖宏, 井頭昌彦との共著), 『現象学年
報』第33号, 2017年(11月), 27-34頁。
2. 「自著紹介『真理・存在・意識——フッ
サル『論理学研究』を読む』(知泉書館、
2017年)」, 『邂逅(岡山大学哲学倫理学会
年報)』, 第32号, 2017年(2018年3月発

行), 55-59頁。

王 安

論文

1. 共著

「感情の普遍性とその言語化—感情表現
の類型論的研究に向けて—」中村芳久教
授退職記念論文集刊行会(編)『ことばの
パースペクティブ』, 71-84, 開拓社, 2018年
3月, 71-84頁

研究発表

1. 単独

「中国語の＜主観性＞の再考察—使役表
出文を中心に—」福岡認知言語学会第
37回大会 2017年9月11日 西南学院
大学

大杉 洋

論文

1. ゲーテ『ファウスト』における Körper に
ついて、日本独文学会中国四国支部『ド
イツ文学論集』第50号、2017年9月21日、
5-15頁。

大貫 俊夫

研究発表

1. 「シトー会修道院と小教区共同体の相互
コミュニケーション—中世盛期のライン
ラントとフランケン の事例から—」, 西
洋中世学会第9回大会、2017年6月3日、
首都大学東京
2. “A Study of the Mutual Effect
Relationship between the Cistercian
Monastery of Heilsbronn and Parish
Communities”, International Medieval
Congress 2017、2017年7月3日、

岡本 源太

研究発表

1. "Nakai Masakazu and Aesthetics of the Machine: A Paradigm of Modernity in Japan 1930-1950," International Conference, *Paradigms of Change in Modernising Asia and America*, Ghent University, Ghent (Belgium), 14 Oct. 2017.
2. 「アンドレ・ブルトンとルネサンス」、第17回関西シュルレアリスム研究会、京都産業大学(京都)、2017年11月4日

金関 猛

論文

1. 「ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』について(三)―精神分析の胎動―」(単著)『岡山大学文学部紀要』第67号 2017年7月 1-18頁
2. 「ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』について(四)―精神分析の胎動―」(単著)『岡山大学文学部紀要』第68号 2017年12月 1-15頁

研究発表

1. 「ジークムント・フロイト／マルタ・ベルナイス『婚約書簡』について―精神分析の生成―」(日本独文学会秋季研究発表会、2017年9月30日、於・広島大学総合科学部)
2. 「フェーリクス・ダーン『オーディンの慰め』を読むフロイト―『婚約書簡』から浮かび上がる死生観」(「金関猛(岡山大学教授)講演会」、2018年2月19日、於・國學院大學渋谷キャンパス)

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 寄稿文「「吉備津宮」復曲記念公演を鑑賞して」、2017年6月17日、山陽新聞文化欄

栗林 裕

著書

1. Chapter 7: Verb-Verb compounding in Japanese and Turkish. In: Pardeshi, P and T. Kageyama (eds.) *Handbook of Japanese Contrastive Linguistics*. Mouton de Gruyter. 2018. pp.227-246. [審査有]

論文

1. SUBJECT AND TOPIC IN TURKISH, TURKIC, AND JAPANESE. *Prof. Dr. Talat Tekin Hatıra Kitabı*. Uluslararası Türk Akademisi. 2017. pp. 661-677.
2. 「トルコ語の数量詞遊離について」林徹・久保智之・藤代節・大崎紀子・岸田泰浩・菅原睦(編) *Contribution to the Studies of Eurasian Languages series (CSEL)*, Vol. 20. 2018. pp.307-320 [審査有]

研究発表

1. 「トルコ語の数詞句」言語の類型的特徴をとらえる対照研究会第4回公開発表会・兼「数詞句の構文的性格」を考える国際シンポジウム、平成29年4月16日、大阪府立大学I-siteなんば
2. Topic marking in Iranian Turkic、The 13th Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFL)、平成29年5月26日、国際基督教大学
3. 「バルト・スラヴ語世界におけるチュルク系少数言語―カラライム語とガガウズ語―」、日本スラヴ学研究会 2017年度シンポジウム「バルト諸語とその隣人たち

—民族と言語をめぐる諸相—」、平成29年6月17日、上智大学〔招聘〕

4. 「ナル表現」をめぐる通言語学的研究 —日本とユーラシアの「ナル表現」—：トルコ語」ワークショップ、日本認知言語学会第18回全国大会、平成29年9月16日、大阪大学
5. Karşılaştırmalı Dilbilim Bakış Açısıyla Türkçede Ol- Fiili. Uluslararası Türk Dili Konuşan Ülkeler Kurultayı, 2017年11月14日、トルコ・アンカラ・シェラトンホテル〔招聘による渡航〕.
6. 「数量詞遊離の言語類型論」文学部プロジェクト研究「日本語と他言語における言語類型論的研究と言語教育への応用」第二回研究報告会、平成30年2月13日、岡山大学文学部
7. Topic and Related Constructions in Turkic, International Symposium: Current Topics in Turkic Linguistics, 平成30年3月4日、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所
8. 「旧約聖書の創世記の「存在・出来・変化」：トルコ語」、第二回「ナル表現」研究会 類型論を視野に入れた「ナル表現」をめぐる通言語的研究、平成30年3月27日、創価大学〔招聘〕
9. 「コソボ・トルコ語方言についての覚書」、2017年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」、平成30年3月29日、京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター

桑原 晴子

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 【海外ジャーナルレビュー】

「Andrew Samuels The future of Jungian analysis: strengths, weakness, opportunities, threats (‘SWOT’).」
臨床ユング心理学研究, 第3巻1号, pp.91-93.

2. 【海外文献抄録】

「身体的レベルにおける患者の共生的つながりの残響：患者と分析家における表象されていない状態」 精神療法, 第44巻2号, p.304.

齋藤 圭介

論文

1. 2017、「〈生殖と男性〉の社会学——ジェンダー理論における平等論・再考」東京大学大学院人文社会系研究科・博士論文
2. 2017、「質的比較分析 (QCA) と〈社会科学の方法論争〉」『社会学評論』68 (3) : 386-403.

研究発表

1. 2017、「戦後日本の社会学者の専攻分野の重複と差異——多次元尺度構成法を用いた時系列変化に着目をして」、単独、早稲田社会学会第39回例会（於・早稲田大学）
2. 2017、「決定論と誤差」、単独、ソーシャルコンピューテーション学会第7回大会、（於・首都大学東京 東京オフィス）
3. 2017、「質的比較分析はどのように経験的データを扱うべきか」、単独、日本社会学会第90回大会（於・東京大学）

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. [翻訳] デメッロ, マーゴ (田中洋美監訳, 兼子歩・齋藤圭介・竹崎一真・平野邦輔訳), 2017, 『ボディ・スタディーズ——性, 人種, 階級, エイジング, 健康／病の身体学への招待』晃洋書房.

佐々木 守俊

著書

1. 『天皇の美術史 第1巻 古代国家と仏教美術』吉川弘文館、平成30年3月、総頁数238頁、「鎌倉時代の院政と宗教美術」(165～228頁)を担当

論文

1. 「蒙古襲来と仏教版画」(『パラゴネ』5号、平成30年3月、61～64頁)
2. 「シーボルト・コレクションの彫刻」(国立歴史民俗博物館編『シーボルト・コレクションから考える』大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、平成30年3月、69～76頁)

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「平安の国宝仏大全」(山本道生編『平安の美仏大百科』樫出版社、平成30年2月、8～47頁)

姜 克實

論文

1. 「台児庄派遣部隊の再戦——第二回攻城」『岡山大学文学部紀要』67巻、2017-07/ 21-34 頁
2. 「田嶋栄次郎と日本軍の曲阜占領」(黄自進ほか編『〈日中戦争〉とは何だったのか』ミネルヴァ書房、2017年9月)86-124頁
3. 《刘老庄连殉难过程考证》(「劉老庄連の殉難についての考証」)『岡山大学社会

文化科学研究科紀要』44巻、2017-11/ 21-38頁

4. 《新庄中佐战死情况报告考证——有关平型关大捷的新史料》『岡山大学文学部紀要』68巻、2017-12/ 19-32頁.
5. 「浮田和民の帰一理想」(『帰一協会の挑戦と洪沢栄一』見城悌治外編、ミネルヴァ書房、2018年2月)、54-75頁
6. 《日军记录中的狼牙山作战》《文化共生学研究》17巻(岡山大学大学院文化科学研究科)、2018-03、55-77頁
7. 《关于步兵第54联队刘老庄战斗史料的追踪考察》《岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要》45巻、2018-03、1-17頁

清家 章

論文

1. 「高知の古墳と社殿」『高知考古学研究』創刊号 高知考古学研究会 2017年4月 pp.25-33

研究発表

1. Analysis of Internal Burial Facilities as an Approach to Social Stratification European Association for Asian Art Archaeology 2017年8月25日 チューリッヒ大学、スイス

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「和歌山県磯間岩陰遺跡第1号石室の副葬品」『考古学研究』64巻第4号 p.112 2018年3月
2. 「『共謀罪』と考古学研究」『考古学研究』64巻2号 pp.1-3 2017年9月

高野 宏

著書

1. (共著) 美咲町史編さん委員会・中央町誌編集委員会『中央町誌 民俗編』美咲町、2017、2-13 頁、86-124 頁、134-145 頁.

研究発表

1. 「無形文化遺産「壬生の花田植」の伝承・公開をめぐる組織体制」、日本地理学会、2017年9月29日、三重大学.
2. 「無形文化遺産「壬生の花田植」の存立構造—その資金に着目して—」、人文地理学会、2017年11月19日、明治大学.

田中 共子

論文

1. (共著) Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka 2017.8 Creating a collaborative culture in Japanese Multicultural care sites: Examining factors influencing mental health. Progress in Asian Social Psychology Series, Volume11, Asian Psychology and Asian Societies in the Midst of Change, 283-304. (審査あり)
2. (共著) Sachiko Nakano, Tomoko Tanaka and Simic-Mira Yamashita 2017.8. Difficulties and coping strategy of Muslims in Japan during Intercultural contact situations: Analysis of Difficulties Related to Demographic, Coping Strategies Progress in Asian Social Psychology Series, Volume11, Asian Psychology and Asian Societies in the Midst of Change, 29-58. (審査あり)
3. (共著) Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka 2017 The Implications of cross-cultural social skills of Japanese people in Turkey in order to form relationships with Turkish Muslims. The Asian Conference on Psychology & the

Behavioral Sciences 2017 Official Conference Proceedings. (審査あり)

4. (共著) Jung Hui Lee and Tomoko Tanaka 2017 Superordinate Identity in Zainichi Koreans (Koreans Living in Japan) . The IAFOR Journal of Psychology and Behavior Sciences, Vol3, Issue1,49-60. ISSN:2187-1675 Summer2017 (審査あり)
5. (共著) 中野祥子・田中共子・奥西有理 2017.8.31 在日ムスリム留学生の異文化滞在に伴う困難の変容－国立大学理工系学生5名の2年間を振り返る事例分析－異文化間教育46,140-151 (審査あり)
6. (単著) Tomoko Tanaka 2018.3 Cross-cultural Health Psychological Perspective of Eating Behaviors : Developing Cross-cultural Dietary Education for Sojourners.文化共生学研究,17,95-104 (審査なし)
7. (共著) 迫こゆり・田中共子 2017.12 ブラジル留学における困難体験とその対処－在ブラジル日本人留学生の異文化適応支援に向けて－ 留学生教育,22,19-30 (審査あり)
8. (共著) 鉄川大健・田中共子 2018.2 プリテン諸島の日本人大学院留学生にみる異文化間友人関係形成. ウェブマガジン留学交流, 83,1-17. https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouryu/2017/_icsFiles/afieldfile/2018/02/08/201802tet_sukawatanaka.pdf (依頼原稿)
9. (共著) 中野祥子・田中共子 2017 日本人ホストはムスリム留学生とどのように対人関係を築くのか 多文化関係学,14,57-75, (審査あり)

研究発表

1. The State of and Issues Related to the Health Literacy of Healthy Elderly in Japan. The Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2018, Kobe, Japan. 2018.3.22-24. Kaori Hatanaka, Emiko Yamakoto and Tomoko Tanaka
2. ゲーミングシミュレーションによる医療安全に対する意識変容—アサーションが与える影響について— 第12回医療の質安全学会学術集会(幕張メッセ、千葉市) 2017.11.25 兵藤好美・田中共子
3. The academic culture shock of Turkish Students in Japan: Two case studies of graduate students. Twelfth International Conference on Interdisciplinary Social Sciences, International Conference Center, Hiroshima, Japan. 2017.7.26-28. Ayse Ilgın Sozen and Tomoko Tanaka
4. Development of "Japanese care methods" in an elderly care facility in Indonesia - The case of an Indonesian care workers who worked in Japan under the EPA and repatriated. The 12th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology, Auckland, New Zealand. 2017.7.26. Kaori Hatanaka, Emiko Yamakoto and Tomoko Tanaka
5. Food acculturation among Mongolian students in Japan. The 12th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology, Auckland, New Zealand. 2017.7.26. Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka
6. ブラジル留学における困難体験とその対処—社会環境と対人環境に注目して— 多文化関係学会第16回年次大会(藤女子大学、札幌市) 2017.9.9 迫こゆり・田中共子
7. 在ブラジル日本人妻の異文化滞在における社会的困難と対処 日本健康心理学会第30回大会(明治大学、東京都) 2017.9.3 迫こゆり・田中共子
8. 在日外国人ケア労働者と日本人の協働文化の構築に向けて—介護施設で就労する外国人の視点からの協働要素の分析— 日本健康心理学会第30回大会(明治大学、東京都) 2017.9.3 畠中香織・山本恵美子・田中共子
9. 看護学生における正確な指示受けのためのソーシャルスキルトレーニング—臨地実習で直面する困難状況を課題場面とした医療安全教育の試み— 日本健康心理学会第30回大会(明治大学、東京都) 2017.9.3 山本恵美子・田中共子・兵藤好美・畠中香織
10. 在米日本人留学生の異文化間友人関係形成—日本コミュニティの活用と友人選択行動— 日本健康心理学会第30回大会(明治大学、東京都) 2017.9.2 鉄川大健・田中共子
11. 高齢者の友人関係と老いへの適応的受容—精神的健康との関わり— 日本社会心理学会第28回大会(広島大学、東広島市) 2017.10.22-23 鉄川大健・田中共子
12. 混合クラスにおける機能的多文化小集団の形成 異文化間教育学会第38回大会(東北大学、仙台市) 2017.6.17 秦喜美恵・中野祥子・田中共子

13. 日本人学生を対象としたムスリム留学生との異文化交流のための異文化間教育－文化摩擦場面のロールプレイから異文化間ソーシャルスキルへ－ 異文化間教育学会第38回大会（東北大学、仙台市）2017.6.17 中野祥子・田中共子

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 座長 シンポジウム：外国人看護師・介護士のストレス 日本ストレス学会第33回学術集会（関西福祉科学大学、大阪府）2017.10. 21-22 田中共子
2. ワークショップ企画・講演 チュートリアルアーキタイプ：ゲーミングシミュレーションの実践と応用 日本心理学会第81回大会（久留米シティプラザ、久留米市）2017.9.22 兵藤好美、田中共子、中村美枝子（講演者三名）

田中 秀和

論文

1. "Fragment Answers with Focus Particles," Journal of English Linguistic Society 35、2018年 152-158

研究発表

1. "Toritate and Functional Categories" Workshop on Formal Altaic Linguistics 13、2017/5/27 国際基督教大学
2. "Fragment Answers with Focus Particles" 日本英語学会 2018/11/18 東北大学

塚本 千秋

論文

1. 学校教職員の不祥事と対策について-校内研修はどうあるべきか- 岡山大学教師教育開発センター紀要第8号 2018

pp59-67.

2. 研修用事例の作成の試み－不祥事防止対策の一助として－ 心理・教育臨床の実践研究 第15号 2017(12)35-40.

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 書評 中村敬編『日常診療における精神療法－10分間で何ができるか』星和書店刊. 精神医療87号 2017(7) p133.

土口 史記

論文

1. 里耶秦簡8-739+8-42+8-55綴合、『簡帛網』(http://www.bsm.org.cn/show_article.php?id=2886)、2017年9月
2. 嶽麓秦簡「執法」考、『東方学報』京都、第92冊、2017年12月、448-417頁

研究発表

1. 秦代官制史研究の新側面－監察制度を中心に－、アジア史連絡会第一回研究会、2017年7月8日、岡山大学
2. 秦代領域控制与官吏移動、第六屆出土文献青年学者論壇、2017年8月9日、中国人民大学
3. 嶽麓秦簡「執法」考、第七屆出土文献与法律史研究學術研討会、2017年11月12日、湖南大学嶽麓書院
4. 「日常業務」の形成－秦漢時代文書行政の一齣－、アジア史連絡会第二回研究会、2017年12月9日、就実大学

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 書評 谷口建速著『長沙走馬楼呉簡の研究－倉庫関連簿よりみる孫呉政権の地方財政－』、『日本秦漢史研究』第18号、2017年11月、105-118頁

堤 良一

著書

1. 『ココが面白い！ 日本語学』、共編・共著（岡崎友子・堤良一ほか2名）、2017年4月、ココ出版、225p.（執筆担当部分：第1章「「しんぶん」の「ん」は同じ音？」、単著、pp.1-14（14p.）、第2章「「友子の部屋掃除」は「部屋の友子掃除」？」、単著、pp.15-26（12p.）、第4章「「もうご飯食べた？」「いいえ、食べませんでした」は、いつの会話？」、単著、pp.41-52（12p.）、第9章「「そうだ、京都行こう」の「そう」は何をさしている？」、共著（執筆担当部分：pp.111-116、pp.120-121（8p.）、第12章「「アノー、ソノー、エートネ…」何がしたいの？」、単著、pp.151-165（15p.）

研究発表

1. 堤良一「文の逸脱と「きもち」、より豊かな言語研究をめざす会、2017年12月10日、関西学院大学梅田キャンパス
2. 陸宗均・堤良一（2018）「普遍文法と第二言語習得の関連性—束縛理論を中心に—」（審査付き）、共同、2018年2月10日、韓国日本学会第96回国際学術会議、予稿集70-73頁、淑明女子大学

シンポジウム

[司会]

1. パネルディスカッション「私の考えるプロフィシェンシー：裏から表から」日本語プロフィシェンシー研究学会昇格記念シンポジウム 2017年10月1日、関西学院大学梅田キャンパス

科研費

[代表]

1. 「日本語現場指示詞の方言差の解明」（科学研究費補助金（基盤研究（C）課題番号：

17K02775）（研究分担者：岡崎友子氏（東洋大学）、松丸真大氏（滋賀大学）、長谷川哲子氏（関西学院大学）、藤本真理子氏（尾道市立大学）（平成29年度～平成32年度、403万円）

[分担]

1. 「補文における指示関係習得の比較言語学的研究—日・英・韓の束縛関係を中心に—」（科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：15K02771）研究分担者（研究代表者：吉田幸治（近畿大学））、（平成27年度～平成29年度、442万円）
2. 「統計的手法を用いた現代・古代日本語文法研究」（科学研究費補助金基盤研究（C）課題番号：16K02738）研究分担者（研究代表者：岡崎友子（東洋大学））、（平成28年度～平成31年度、416万円）
3. 「Global Soundsを活用した日本語音風景アーカイブの構築と教育応用」（科学研究費補助金挑戦的萌芽研究（課題番号：16K13240）研究協力者（研究代表者：松田真希子（金沢大学））（平成28年～平成30年、117万円）

出村 和彦

著書

1. 『アウグスティヌス 「心」の哲学者』、岩波書店、2017年10月、総208頁

その他

1. 「巻頭言 教父学の全体像再構築へのキックオフ —「相生」の問いかけとしての「愛」—」宮本久雄編『愛と相生 エロース・アガペー・アモル』教友社、2018年3月、5－9頁

東條 光彦

論文

1. 養育内省機能質問票 (PRFI) の作成ならびに信頼性・妥当性の検討、教育実践学論集、18巻、2017、37-48(共著)
2. 大学生男女の BMI と体型不満 — シルエットを用いたボディーイメージの相違 —、日本健康教育学会誌、25巻2号、2017、1-11(共著)
3. 初任期教員における主観的疲労感の経時変化、心理・教育臨床の実践研究、15号、2018、9-14(共著)

研究発表

1. 同一都市における男子中学生の食行動異常の実態調査 — 5年前と比較して —、第58回日本心身医学会総会、2017.6.17、札幌(タイトル、発表した学会等の名称、発表年月日、発表場所)
2. 中学生の援助要請行動とその抑制要因の検討 — 発達の視点からの考察を通じて —、日本認知・行動療法学会第43回大会、2017.9.29、新潟
3. 首尾一貫感覚(SOC)と心理社会的ストレスに対する生理反応・感情状態の関係、日本認知・行動療法学会第43回大会、2017.9.29、新潟
4. 年少児童の社会的スキルが学校適応に及ぼす影響についての縦断的研究、日本認知・行動療法学会第43回大会、2017.9.29、新潟
5. 学校教育領域におけるSST実践のメタ分析 — メタ分析研究からの展望を踏まえた検討 —、日本認知・行動療法学会第43回大会、2017.9.29、新潟
6. 中学生における対象を限定した場合の過剰適応感-心理的距離と抑うつとの視点か

ら、日本認知・行動療法学会第43回大会、2017.9.29、新潟

7. Web.上で行うポジティブ感情想起課題がメンタルヘルスに及ぼす効果の研究、日本認知・行動療法学会第43回大会、2017.9.30、新潟
8. 社会的スキルと仲間関係の向上のための小学生を対象としたピア・サポート・トレーニング、日本認知・行動療法学会第43回大会、2017.9.30、新潟
9. 中学生における摂食障害とインターネット依存との関連：大規模地域調査、第57回日本心身医学会九州地方会、2018.1.28、福岡

徳永 誓子

著書

1. 共著 『日本の時空間の形成』吉川真司・倉本一宏編、思文閣出版、2017年5月、608頁、担当箇所論文「日本中世生霊私論」423-442頁

研究発表

1. 五来重の修験道研究、国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性—視覚／大衆／現代」、2017年9月24日、国際日本文化研究センター

中尾 知代

研究発表

1. 「捕虜たちの言葉に耳傾けて」(NHK ラジオ深夜放送)「ラジオ深夜便 明日への言葉」
3月23日 科研の結果を織り込み発表

中谷 文美

論文

1. 「インド、アッサムにおける生態資源利用—「線具」を中心に」金谷美和、上羽陽子、中谷文美(共著)『パレオアジア文化史学B01班研究報告書No.2』2018年3月、1-5頁。

研究発表

1. “Conversing through textiles: Mediation across producing and consuming ends of Balinese songket,” Fashionable Tradition: Innovation and Continuity in the Production and Consumption of Handmade Textiles and Crafts, A Joint CASCA and IUAES Conference, 2-7 May, 2017, University of Ottawa, Canada.
2. 「インド、アッサムにおける生態資源利用—「線具」を中心に」金谷美和、上羽陽子、中谷文美(共同発表)パレオアジア文化史学第3回研究大会、2017年5月13～14日、国立民族学博物館。
3. 「飾る×手芸」国立民族学博物館共同研究「現代＜手芸＞文化に関する研究」研究会、2017年10月1日、国立民族学博物館。
4. 「オランダ流ワーク・ライフ・バランスに見る、＜人生＞と＜仕事＞の関係」筑波大学ダイバーシティセミナー、2018年2月23日、筑波大学。
5. 「《女性が輝く社会》とは？オランダにおけるワーク・ライフ・バランス政策の背景と人々の実践」「新たな働き方のための組織変革」ワークショップ、2018年3月6日、南山大学、経営研究センター。

講演

1. 招待講演「グローバル時代を生きるとい

うこと」西日本エンジンシステム研究会夏季セミナー、2017年9月27日、閑谷少年自然の家。

2. 公開講演会「なぜ、働くの？『逃げ恥』を通して考える愛とお金と仕事の関係」パリティCafé@神田、2017年10月7日。
3. 平成29年度ウィズカレッジ「家事は愛の証？テレビドラマ『逃げ恥』を通して考える愛とお金と仕事のカンケイ」2018年3月10日、ウィズセンター。
4. 招待パネリスト、内外情勢調査会、2018年3月26日、ホテルグランヴィア岡山。

中東 靖恵

論文

1. 「岡山県総社市における多文化共生の現状と課題—地域日本語教育の推進に向けた地域住民への実態調査—」『岡山大学文学部紀要』67号、2017年7月、pp.35-51、単著

講演

1. 「現代日本語における新語・流行語の移り変わりと社会の変化」倉敷ロータリークラブ月例会、2017年5月25日、倉敷国際ホテル
2. 「現代社会における地域語のあり方—地域方言の衰退と変容—」平成29年度岡大サイエンスカフェ、2018年2月1日(木)、岡山大学創立五十周年記念館
3. 「言語研究者としての社会への貢献—学問の継承・展開と新たな発展—」第41回社会言語科学会社会言語科学会創設20周年記念シンポジウム、2018年3月10日、東洋大学

研修会講演

1. 「岡山県総社市における地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくり」(公

財) 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所(JIAM) 平成29年度「第1回多文化共生マネージャー養成」コース, 2017年7月12日, 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所

2. 「岡山県総社市における多文化共生のまちづくりと地域日本語教育の実践」(公財) 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所(JIAM) 平成29年度「第1回多文化共生の地域づくり」コース, 2017年8月30日, 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所
3. 「地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくりと地域連携—岡山県総社市の事例—」(公財) 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所(JIAM) 平成29年度「第2回多文化共生マネージャー養成」コース, 2018年1月17日, 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所
4. 「多文化共生のまちづくりと地域日本語教育の実践—岡山県総社市の事例—」(公財) 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所(JIAM) 平成29年度「第2回多文化共生の地域づくり」コース, 2018年2月1日, 全国市村研修財団全国市町村国際文化研修所
5. 「地域における多文化共生とやさしい日本語」岡山市国際交流協議会多文化共生のまちづくりセミナー, 2018年3月5日, 岡山市役所国際課

新納 泉

論文

1. 前方後円墳の設計原理と墳丘大型化のプロセス、国立歴史民俗博物館研究報告、第211集、2018年3月、51-77頁

研究発表

1. 前方後円墳の実像とその機能、国際学術大会“東アジア宗廟と古墳祭祀の比較考古学”、2017年11月17日、韓国慶州
- その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 先端技術で描く文化遺産の新実像、岡山大学グローバル最先端異分野融合研究機構埋蔵文化財研究コア、2018年1月、8頁、編著
2. 前方後円墳の三次元計測—科学研究費補助金基盤研究(B) 研究成果報告書、岡山大学大学院社会文化科学研究科、2018年3月、42頁、編著

西山 康一

論文

1. 「芥川龍之介「誘惑」の生成過程——〈狂気〉と映画の親和性」、『芥川龍之介研究』第11号、2017年7月、39-57頁
2. 共著「江戸東京博物館所蔵芥川龍之介関係資料解題(四)」、『芥川龍之介研究』第11号、2017年7月、108-143頁

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「(書評) 田鎖数馬『谷崎潤一郎と芥川龍之介「表現」の時代』」『日本近代文学』第96巻、2017年5月、165-168頁
2. シンポジウム「『薄田泣菫宛書簡集全3巻』の刊行を終えて」司会・ディスカッション、2017年9月3日、倉敷市美術館

フォックス・ブライアン・トーマス

研究発表

1. 'The Bohee Brothers in Ulysses: Joyce, Race, and Blackface Minstrelsy', 日本英文学会中国四国支部第70回支部大会, 2017年10月28日, 就実大学

2. 'Remembering Kevin Egan: Joyce and the Sesquicentennial of the 1867 Fenian Rising', 日本ジェイムズ・ジョイス協会第29回研究大会, 2017年06月10日, 京都大学

藤井 和佐

論文

1. 『「地域の「農」をあきらめない」人びと——大崎市中山間地域における協業事例」地域生活文化圏研究会編・発行『地方の社会解体的危機に抗する「地域生活文化圏」形成の可能性 報告書』、2017年8月、61-75頁

研究発表

1. 「長野県農村生活マイスター制度の現状と課題(2) ——A町を事例として」日本村落研究学会第65回大会、2017年11月11日、静岡県浜松市天竜消防署春野出張所
その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 講演:「地域自治の担い手としての『女性』」丹波市男女共同参画講演会、2017年6月23日、兵庫県丹波市立春日文化ホール
2. 講演:「岡山県における集落の現状と課題——集落事例調査の分析結果より」平成29年度第2回地域公共政策セミナー(岡山県議会地域公共政策研究会)、2017年9月8日、岡山県庁
3. 講演:「農山村社会における女性地域リーダー・リクルートメントをめぐる可能性と課題」中国四国農政局「外部有識者による業務研修」、2017年9月20日、中国四国農政局

本田 晃子

論文

1. 地下鉄言説の解体——ゲオルギー・ダネリヤ監督作品『僕はモスクワを歩く』と『ナースチャ』における地下鉄空間、スラブ研究、64、2017(6月)、135-164頁
2. ファクトからシミュラークルへ:『全線』に見るソフホーズの形象、Intelligence、18、2018(3月)、54-67頁

研究発表

1. From Underground Palace to Metro Station: An Analysis on Architectural Imagery of the Moscow Metro in Georgiy Daneliya's I Walk around Moscow, 8th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies, 2017年6月3日, Chung-ang University, SEOUL, KOREA
2. ファクトからシミュラークルへ:『全線』に見るソフホーズの形象、2017年12月16日、20世紀メディア研究所第116回研究会、早稲田大学(20世紀メディア研究所)

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. (書評) 土居伸彰著『個人的なハーモニー: ノルシュテインと現代アニメーション論』、ロシア語ロシア文学研究、49、2017(10月)、112-118頁

松村 圭一郎

著書

1. 『うしろめたさの人類学』、ミシマ社、2017年10月、192頁。
2. 共著『国家支配と民衆の力—エチオピアにおける国家・NGO・草の根社会』(宮脇幸生編)、大阪府立大学共同出版会、140-143頁(担当「政府系・非政府組織と

は？—食糧援助体制のなかのNGO—」。

3. 共著『世界地誌シリーズ8 アフリカ』（島田周平・上田元編）、朝倉書店、2017年9月、56-63頁（担当「生業と土地利用の変化」）。

論文

1. 「分配と負債のモラリティ：アフリカの名もなき思想の現代性」、『思想』1120号、2017年8月、39-59頁。

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 「ことばの庭：タチャウト！——コンヴィヴィアリティのための技法」『早稲田文学』1027号、2018年3月、336-338頁。
2. 「essay：エチオピアから日本をみて 気づかされること」『月刊よろず』第5号、2018年2月、30 - 33頁。

松本 直子

論文

1. Tomomi Nakagawa, Hisashi Nakao, Kohei Tamura, Yui Arimatsu, Naoko Matsumoto and Takehiko Matsugi 2017年4月 Violence and warfare in prehistoric Japan. *Letters on Evolutionary Behavioral Science* Vol.8 No.1, 8-11.
2. 松本直子「人類史における戦争の位置づけ」『現代思想』2017年6月号、162-174頁 青土社
3. 田村光平・有松唯・山口雄治・松本直子 2017年8月「遠賀川式土器の楕円フーリエ解析」中尾央・松木武彦・三中信宏編著『文化進化の考古学』勁草書房、35 - 62頁
4. Naoko Matsumoto, Junko Habu and Akira Matsui 2017.12. Subsistence,

sedentism, and social complexity among Jomon hunter-gatherers of the Japanese Archipelago. *Handbook of East and Southeast Asian Archaeology*, edited by Junko Habu, Peter V. Lape, and John W. Olsen, pp.437-450. Springer, New York.

研究発表

1. 日本の博物館におけるジェンダー表現の課題と展望—歴博の考古学展示に触れつつ—2017年7月2日、歴博国際研究集会「歴史展示におけるジェンダーを問う」、於国立歴史民俗博物館（招待講演）
2. Nakao, H., Tamura, K., Arimatsu, Y., Nakagawa T., Matsumoto, N. and Matsugi, T. Violence in the prehistoric periods of Japan: The spatiotemporal pattern of skeletal evidence for violence in the Jomon and Yayoi period. Poster presentation at the 3rd Shanghai Archaeology Forum, Shanghai University, 8-11 December 2017.

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. Concluding comments.
2017年8月7 - 8日、Perspectives on Prehistoric Cultural Evolution: From Archaeology to Behavioral Experiment（「歴史科学諸分野の連携・総合による文化進化学の構築」課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）平成26 - 29年、代表者：井原泰男、成果国際シンポジウム）、於東京都AP品川
2. 考古学から戦争の起源を考える
2017年10月1日、平成29年度岡山県立博物館博物館講座、於岡山県立博物館
3. 大学院社会文化科学研究科文明動態学シ

ンポジウム「モニュメントから見る文明
動態論」(コーディネーター)

2018年2月24日、於岡山シティミュージ
アム。報告者：杉山三郎、松木武彦

本村 昌文

論文

1. 『徒然草摘議』における「老い」の観念—『徒然草』第7段の理解を中心として—、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』45号、2018年3月

研究発表

1. 江戸期における老い・死・死後—『徒然草』第7段の注釈を中心に—、明治大学人文科学研究所総合研究「現象学の異境的展開」第4回講演会「江戸の身体観・死生観—現象学的アプローチ—」、2017年8月26日、明治大学
2. 村岡典嗣の思想をめぐる知的基盤、科研費・基盤研究C 知的基盤研究・第2回研究会、2017年9月16日、秋田工業高等専門学校
3. 長生きはめでたいことなのか?—『徒然草』注釈からみる17世紀における「老い」の観念—、科研費・基盤研究B・成果公開シンポジウム「ケアの現場と人文学研究との協働による新たな〈老年学〉の構築」、2017年12月23日、北京日本学研究中心
4. 村岡典嗣の「日本精神論」、科研費・基盤研究C 知的基盤研究・第3回研究会、2018年3月10日、秋田工業高等専門学校
5. 老い・看取り・死—人文学を基幹とした新たな〈老年学〉の構築—、西安外国語大学日本文化経済学院系列講座、2018年3月26日、西安外国語大学

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. ケアの現場と人文学研究との協働による

新たな〈老年学〉の構築、『地域ケアリング』
19-12、2017年12月12日

2. 老いと死をみつめる、『科研費・研究成果報告書 現代日本における「死のケア」のための異分野融合研究』、2018年3月23日

山本 秀樹

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 京都大学文学部国語学国文学研究室編『京都大学蔵頼原文庫選集』第六巻 談義本 読本 軍書(臨川書店)2018年3月、393頁(監修責任者)
2. 相生玉手箱(京都大学文学部国語学国文学研究室編『京都大学蔵頼原文庫選集』第六巻 談義本 読本 軍書、臨川書店、2018年3月、翻刻pp.1-64 解題pp.353-362)
3. 俗三教裸話(京都大学文学部国語学国文学研究室編『京都大学蔵頼原文庫選集』第六巻 談義本 読本 軍書、臨川書店、2018年3月、翻刻pp.127-162 解題pp.370-377)

遊佐 徹

論文

1. 魯迅が書斎に飾った「像」の真像を求めて—北京・魯迅故居、「老虎尾巴」の素描・肖像・仏像—《燕都私憶》第3回、『中国文史論叢』第13号、2017年6月、59-79
2. 慈禧太后的肖像画:Portrait与“聖像”、『美育学刊』2017年第2期、63-71(唐衛萍 杭州師範大学講師による中国語訳)
3. フィンガーボウルと李鴻章(3)、『岡山大学文学部紀要』第68号、2017年12月、45-54

研究発表

1. 清末危機意識の2次元的回転 (Mapical Turn)—地図と近代中国人、平成29年度岡山大学文学部プロジェクト研究「鳥の目の獲得と自己認識—近代社会の地理表象・地図表象」第1回研究報告会、2017年12月13日、岡山大学文学部13番講義室
その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. 事典項目：①漫画—中国動漫文化の展開、②蠟人形—見世物と政治的身体、『中国文化事典』、同編集委員会編、丸善出版、2017年4月
2. 受賞：第47回谷口記念賞（山陽放送学術文化財団）、野崎家文書の研究—岡山の東アジア交流に関する新史料の発掘—を授賞対象とする、2017年5月30日
3. 記事：特集 瀬戸内の塩が育んだ近代アジアネットワーク—児島、野崎家に集った「人」と「書画」—序、『岡山大学大学院社会文化科学研究科文化共生学研究』第17号、2018年3月、1-2

吉田 浩

論文

1. 「帝政ロシアにおける『大改革』の開始と財政金融政策」『岡山大学文学部紀要』第68号、2017年、33-44頁

研究発表

1. 「鳥の目でみたロシア帝国～ロシアはどのように『大国』になったのか～」『文学部プロジェクト研究 鳥の目の獲得と自己認識』、2018年3月27日、岡山大学

RENOUD Loic

論文

1. Rôle des concepts du japonais première langue dans des tâches sur les temps verbaux du français langue étrangère. 『Revue japonaise de didactique du français』、日本フランス語教育学会. Vol. 12, n° 1&2, pp. 103-120. 2017年9月
2. An enactive perspective on analyzing finite verbs in French conversational interaction. 岡山大学文学部紀要 第68号、pp. 85-100. 2017年12月

研究発表

1. L'analyse des formes verbales finies dans une perspective éactive : exemples en français dans une conversation. 日本フランス語フランス文学会中国・四国支部大会. 徳島大学常三島キャンパス. 2017年12月9日

その他

1. 書評
Bajrić, Samir (2009). Linguistique, cognition et didactique. Principes et exercices de linguistique-didactique. Paris: PUPS, 301 p. 『Revue japonaise de didactique du français』、日本フランス語教育学会. Vol. 12, n° 1&2, pp. 235-237. 2017年9月
2. 進行役
Articuler compréhension et production en classe de langue étrangère. 関西フランス語研究会. 大阪、上田安子服飾専門学校. 2018年3月27日

和田 郁子

著書

1. (共著)『海と陸の織りなす世界史—港市と内陸の一体化と分化』弘末雅士編、春風社、2018年3月、349頁(担当：第7章「植民地港市」ナーガパッティナムの形成—近世コロマンデル海岸と南インド内陸社会(135-173頁))

研究発表

1. 「オランダ東インド会社史料と南部アフリカ」、「移動と接触の社会史」共同研究グループ第一回例会、2017年11月11日、岡山大学文学部

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 真下裕之監修(二宮文子・真下裕之・和田郁子訳)「アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注(6)」『紀要』(神戸大学文学部)45、2018年3月、pp. 1-44

民衆—」、2017年度女性研究者シーズ発信会、2017年12月19日、岡山大学。

3. 講演「説教から読み解く中世キリスト教世界—トマス・アキナスにおける説教の位置づけ」、第18回岡山大学哲学倫理学会、2018年3月10日、岡山大学。
4. 「説教の分析から見えてくるもの—トマス・アキナス説教18Germinet Terraを例に」、岡山大学文学部貧困プロジェクト2017年度第2回研究会、2018年3月22日、岡山大学。

袴田 玲

著書

1. 宮本久雄編『愛と相生—エロース・アガペー・アモル』、[共著、担当箇所「身体への愛は語りうるか」65-88頁を単独執筆]、教友社、2018年3月、総頁数201頁。

論文

1. 「三一的存在としての人間—グレゴリオス・パラマス『第六十講話』における『神の像』理解」、『エイコーン—東方キリスト教研究』、第48号、2018年、掲載決定。

研究発表

1. 「三一的存在としての人間—グレゴリオス・パラマス『第六十講話』における『神の像』理解」、東方キリスト教学会第17回大会、2017年8月29日、南山大学。
2. 「東方キリスト教の世界—聖山アトスと

【補掲】紀要第 67 号掲載「文学部教員研究活動」(欠落分)

紀要委員会の編集不手際により、67 号で掲載漏れとなった稿を以下に補掲するとともに、執筆者の方にお詫び申し上げます。

田中 共子

著書

1. 白土聖・田中共子 2016.6. 『異文化間教育学体系 第一巻・異文化間に学ぶ「ひと」の教育』 小島勝・白土悟・齋藤ひろみ編 「第三章・外国人留学生の教育」 pp.360-82 明石書店 (総頁数 231頁、共著)

論文

1. 田中共子・中野祥子 2016.8 在日外国人留学生における食の異文化適応—異文化間食育への示唆— 異文化間教育44, 116-128(共著)
2. Emiko Yamamoto, Tomoko Tanaka, Yoshimi Hyodo and Kaori Hatanaka 2016.6 A study on improving listening efficacy of instructions for nursing students towards the accurate information transfer. The IAFOR The Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2016 Official Conference Proceedings, 320-333.(共著)
3. Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka 2016 Comparison of Dietary Behaviors and Acculturation of Korean and Japanese Students in Japan. The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2016 Official Conference Proceedings. (共著)

研究発表

1. Kaori Hatanaka and Tomoko Tanaka 2016.4.2 Comparison of dietary behaviors and acculturation of Korean international and Japanese students in Japan. The Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2016, Art Center of Kobe, Kobe, Japan.
2. Emiko Yamamoto, Tomoko Tanaka, Yoshimi Hyodo and Kaori Hatanaka 2016.4.2 A Study on Improving Listening Efficacy of Instructions for Nursing Students Towards the Accurate Information Transfer. The Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences 2016, Art Center of Kobe, Kobe, Japan
3. 山本恵美子・田中共子・兵藤好美・畠中香織 2016.10.1 看護学生の情報伝達に関わる医療安全教育への試み—指示の出し受けスキル育成に向けたプログラム介入効果の検討—第3回アジア未来会議 於北九州国際会議場(北九州市)
4. Kaori Hatanaka, Emiko Yamamoto and Tomoko Tanaka 2016.10.1 The influence of the relationship with foreign care workers on depression, meaningful life, and perceived health status of the Japanese elderly. The 3rd Asia Future Conference, Kitakyushu International Conference Center, Kitakyushu, Japan
5. 鉄川大健・田中共子 2016.11.19 在日日本人留学生のソーシャルスキル：友人関係における困難, 対処方略および工夫, ホストによる対処の評価 日本健康心理学会第29回大会 於岡山大学(岡山市)

6. 山本恵美子・田中共子・兵藤好美
2016.11.19 患者の医療態度と健康観およびエラーパターン：患者を対象とした医療安全教育の開発へ向けて 日本健康心理学会第29回大会 於岡山大学(岡山市)
7. 田中共子 2016.6.4 AUC-GS学習モデルに基づくASセルのエクササイズとして構成された文化間距離課題への反応 異文化間教育学会第37回大会 於桜美林大学(東京都)
8. 中野祥子・田中共子 2016.6.4 日本人学生向けムスリム文化アシミレーター の改訂版を用いた異文化間教育の試み 異文化間教育学会第37回大会 於桜美林大学(東京都)
9. 鉄川大健・田中共子 2016.9.18 在スイス日本人留学生の異文化間友人関係形成 日本社会心理学会第57回大会 於関西学院大学(西宮市)
10. 兵藤好美・田中共子 2016.9.1 「医療安全の意識」に関する因子構造—新たな尺度編成を巡って— 日本応用心理学会第83回大会 於札幌市立大学(札幌市)
11. 鉄川大健・田中共子 2016.9.1 在仏日本人留学生のソーシャルサポートネットワーク 日本応用心理学会第83回大会 於札幌市立大学(札幌市)
12. Emiko Yamamoto, Tomoko Tanaka and Yoshimi Hyodo 2016.7.23 Medical Safety Awareness in Patients during the Outpatient Visit: Exploring the Possibility of Medical Safety Education for Patients. The 6th Asian Congress of Health Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan
13. Kaori Hatanaka, Emiko Yamamoto and Tomoko Tanaka 2016.7.24 Comparison of Japanese and Foreign Care Workers' Impressions of Care Work in Japan with the Aim of Improving Cross-Cultural Care at a Japanese Care Site. The 6th Asian Congress of Health Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan
14. Tomoko Tanaka 2016.7.24 Keynote Speech: Cross-cultural Health Psychological Perspective of Eating Behaviors: Developing Cross-cultural Dietary Education for Sojourners. The 6th Asian Congress of Health Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan
15. Hirokatsu Tetsukawa and Tomoko Tanaka 2016.7.28 Japanese Students' Coping Strategies and Perception of Interpersonal Cultural Differences While Sojourning in the United Kingdom: With a Focus on Cross-Cultural Friendships. 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan.
16. Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka. 2016.7.28 Interpersonal Behavioral Difficulties of Japanese People in Indonesia During Situations of Intercultural Contact: Implications for Learning Social Skills towards Forming Relationships with Indonesian Muslims. 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan.

17. Tomoko Tanaka 2016.7.25 Contributed Symposium: Health Psychology "Psychology and nutrition: Exploring nutrition-related behaviors to improve health and wellness from clinical setting to community." Japanese students' cross-cultural adjustment related to eating in France: Implications for cross-cultural eating education from cross-cultural health psychological perspective. 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan
18. Koyuri Sako and Tomoko Tanaka 2016.8.2 Exploratory research on the relationship between Japanese Brazilians and Japanese living in Brazil -The Nikkei three-factor model comprising language and social support needs, selective relationships, and national group preferences-. International Association for Cross-cultural Psychology, 23rd International Congress, WINK Aichi, Nagoya, Japan
19. Hirokatsu Tetsukawa and Tomoko Tanaka 2016.8.2 "Nommunication" of Japanese Students in Europe: Affect of Attitude on Behavior Exhibited in Alcohol Based Social Situation. International Association for Cross-cultural Psychology, 23rd International Congress, WINK Aichi, Nagoya, Japan
20. Koyuri Sako and Tomoko Tanaka 2016.8.2 Exploratory research on the relationship between Japanese Brazilians and Japanese living in Brazil -The Nikkei three-factor model comprising language and social support needs, selective relationships, and national group preferences-. International Association for Cross-cultural Psychology, 23rd International Congress, WINK Aichi, Nagoya, Japan
21. 中野祥子・田中共子 2016.9.24 日本人ホストは在日ムスリム留学生とどのように関わりを築いていくのか？—異文化接触場面における交流の工夫— 日本質的心理学会第13回大会 於名古屋市立大学(名古屋市)
22. 鉄川大健・田中共子 2016.10.1 在スペイン日本人留学生の異文化間友人関係形成 多文化関係学会第15回年次大会 於佐賀大学(佐賀市)
23. 中野祥子・田中共子 2016.10.1 在トルコ日本人における対人行動上の困難—トルコ人との異文化交流における葛藤経験の分析— 多文化関係学会第15回年次大会 於佐賀大学(佐賀市)
24. Emiko Yamamoto, Tomoko Tanaka and Yoshimi Hyodo 2016.11.18 How a nurse helps prevent unsafe behavior of patients regarding four types of medical care attitudes -Attempt to provide medical safety education on patient safety to nursing students through the guessing exercise-. 25th International Conference on Healthcare and Life Science, Bukit Bintang Event Spaces, Kuala Lumpur, Malaysia
25. Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka 2017.1.19 The Implications of Cross-cultural Social Skills of Japanese

- People in Turkey in order to Form Relationships with Turkish Muslims. 2017 Society for Personality and Social Psychology Convention. San Antonio, USA
26. Emiko Yamamoto, Tomoko Tanaka and Yoshimi Hyodo 2017.3.9 Study on the status of implementation of the social skills clinical training on "accurate information transfer" for nursing students. 20th East Asian Forum of Nursing Scholars, Regal Riverside Hotel, Hong Kong
 27. Sachiko Nakano and Tomoko Tanaka 2017.3.23 The implication of cross-cultural social skills of Japanese people in Turkey in order to form relationship with Turkish Muslims. Asian Congress on Psychology and the Behavioral Sciences 2017, The Art Center Kobe, Kobe
 28. Kaori Hatanaka, Emiko Yamamoto and Tomoko Tanaka 2017.3.24 Elements of Collaboration between Foreign and Japanese Care Workers: A Case Report of an Elderly Facility in Japan. Asian Congress on Psychology and the Behavioral Sciences 2017, The Art Center Kobe, Kobe
 29. Emiko Yamamoto, Tomoko Tanaka and Kaori Hatanaka 2017.3.24 How a Nurse Helps Prevent Unsafe Behavior of Patients: Providing Medical Safety Education to Nursing Students through the Guessing Exercise. Asian Congress on Psychology and the Behavioral Sciences 2017, The Art Center Kobe, Kobe
 30. Jung Hui Lee and Tomoko Tanaka 2016.3.24 Superordinate Identity in Zainichi Koreans (Koreans Living in Japan). Asian Congress on Psychology and the Behavioral Sciences 2017, The Art Center Kobe, Kobe
- その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. 司会：田中共子 2016.11.19 特別講演：健康のグローバル・パースペクティブ 日本健康心理学会第29回大会 於岡山大学(岡山市)
 2. 指定討論：田中共子 2016.11.20 一般公開シンポジウム：メンタルヘルスが壊れる前に適切に予防を行うー健康心理学の予防的知見を現場にー 日本健康心理学会第29回大会 於岡山大学(岡山市)
 3. Introduction：Tomoko Tanaka 2016.7.27 Invited Address: Economic Hardship, Coping and Psychological Well-being. (by Ester Greenglass), 31st International Congress of Psychology, PACIFICO Yokohama, Yokohama, Japan